

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護総合演習Ⅱ Care Practice Support Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護総合演習Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2階	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護総合演習Ⅰの学習内容をもとに、多様な実習形態を通して、利用者およびさまざまな生活の場や介護の場の理解を深める。また、介護過程の第1段階である利用者の情報収集について、その必要性を理解するとともに、具体的な記録方法を学ぶ。				
授業の目標				
①多様な生活や介護の場に触れ、利用者を総合的に捉えられるようにする。 ②介護における倫理の重要性を認識し、専門職であることを自覚できるようにする。 ③居宅サービスの種類や形態、訪問時の留意点を説明できるようにする。 ④利用者記録および情報収集用紙を適切に書くことができるようにする。 ⑤実習反省会等を通して自己を振り返り、次段階実習に向けた課題を明確にできるようにする。				
授業の方法				
講義、演習、視聴覚教材の視聴、グループワーク、実習オリエンテーションおよび反省会等、多様な授業形態である。実習記録については演習と個別指導を取り入れる。				
学習の成果(学習成果)				
①既習の学習内容や実習での体験をふまえて、介護実習および介護福祉士に必要な知識・技術を習得し、次段階実習に臨むことができる。 ②居宅サービスに関する知識や留意点を踏まえ、訪問入浴実習を行い、サービス内容や支援のあり方について述べることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法など) 基礎実習Ⅰの振り返り(グループ討議)			
第2回目	基礎実習Ⅰの振り返り(発表とまとめ)			
第3回目	介護倫理(介護倫理とは、介護福祉士の義務規定および罰則、倫理綱領)			
第4回目	基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰの準備(実習先希望調査票の配布・説明) 実習先施設の理解(障害福祉サービス、小規模多機能型居宅介護)			
第5回目	スーパービジョン、介護事故およびヒヤリハット事例			
第6回目	居宅サービスおよび居宅介護実習先の理解			

第7回目	居宅介護実習Ⅰの準備（実習方法と留意点を説明、実習記録一式配布）、訪問入浴見学実習（別日程で実施） 【レポート1：訪問入浴見学実習の感想と学び、提出期限は授業で指示する】	
第8回目	感染対策（予防）の基礎知識 *胸部レントゲン撮影：11月中旬～下旬に学内で実施。日程は決まり次第連絡する。	
第9回目	利用者の情報収集について（情報の必要性和ICFの視点からの情報収集）	
第10回目	基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰの準備（実習関連書類の配布・記入、「課題と抱負」の作成について説明） 視聴覚教材「こころに響く接遇」の視聴 【レポート2：VTRを視聴した感想と学び、提出は次回授業時】	
第11回目	実習記録① 「利用者記録」の書き方、家系図の作成	
第12回目	実習記録② 利用者の特定の仕方、行動計画 【レポート3：自分を利用者と仮定して利用者記録と情報収集用紙に記録する、提出期限は授業で指示する】	
第13回目	基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰの準備（検便容器の配布・説明） 居宅介護実習Ⅰ 反省会・まとめ 【レポート4：実習の振り返り（事前に記入し持参）、提出は授業終了時】	
第14回目	実習記録③ 利用者記録の書き方（個別指導）	
第15回目	基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰの準備（実習記録一式を配布） 基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰオリエンテーション *反省会は別日程にて実施する。	
事前・事後学習	介護の現場および介護実習を具体的にイメージすること。介護総合演習Ⅰの内容の他、生活支援技術や介護過程の展開等、各授業での学習内容を復習すること。実習各期の目標と方法を確認しておくこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備し、必要なことはノートにとっている。②課題や実習関連書類の提出期限を守っている。③グループワーク時は他学生の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。
レポート	30%	第7回目、第10回目、第13回目にレポートを課す。S評価のレポートは、テーマに沿って学びや気づきが具体的に記述されていること。自分の考えがまとめられていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	20%	障害福祉サービスや居宅サービス等について、介護福祉士国家試験に準じた内容を出題する。
発表内容（態度含む）		
その他	30%	自分自身を利用者と仮定し、利用者記録および情報収集用紙を記録する（第12回目）。S評価は、①生活歴や既往歴等を時系列で記入できている。②家系図が適切に書けている。③情報を具体的に記録できている。
教科書と参考図書		
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 第4巻「介護の基本Ⅱ」中央法規出版 福祉小六法 介護実習の手引き		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算6年） 胸部レントゲン撮影を実施するが、指定日に撮影できなかった場合は自己負担となる。実習に備えてインフルエンザの予防接種を受ける（費用は自己負担）。実習時期や準備状況に応じて、授業内容を交替する場合がある。飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机の上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。		